第V章 国有林野の管理経営

1. 国有林野の役割

(1)国有林野の分布と役割

- ▶ 国有林野(758万ha)は、我が国の国土面積の約2割、森林面積の約3割を占め、奥地脊梁山地や水源地域に広く分布しており、国土の保全、水源の涵養等の公益的機能を発揮
- ▶ 多様な生態系を有する国有林野は、生物多様性の保全を図る上でも重要であり、我が国の世界自然遺産(知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島)の陸域の95%は国有林野

(2)国有林野の管理経営の基本方針

- ▶ 国有林野は重要な国民共通の財産であり、「国 有林野事業」として一元的に管理経営
- ▶ 国有林野事業では、2013年度の一般会計化 等を踏まえ、公益重視の管理経営を一層推進す るとともに、林業の成長産業化に向けた貢献等 の取組を推進

国有林野の分布



資料:農林水産省「平成29年度 国有林野の管理経営に関する 基本計画の実施状況」

2. 国有林野事業の具体的取組

(1)公益重視の管理経営の一層の推進

■ 個々の国有林野を、重視すべき機能に応じて「山地災害防止」「自然維持」「森林空間利用」「快適環境形成」「水源涵養」の5つのタイプに区分し管理経営

機能類型区分ごとの管理経営の考え方

| 機能類型区分 | 管理経営の考え方 |
|---------------------|---|
| 山地災害防止タイプ 146万ha | 根や表土の保全、下層植生の発達した森林の維持 |
| 自然維持タイプ 169万ha | 良好な自然環境を保持する森林、希 少な生物の生育・生息に適した森林 の維持 |
| 森林空間利用タイプ 50万ha | 保健・文化・教育的利用の形態に応 じた多様な森林の維持・造成 |
| 快適環境形成タイプ 0.2万ha | 汚染物質の高い吸着能力、抵抗性が ある樹種から構成される森林の維持 |
| 水源涵養タイプ 392万ha | 人工林の間伐や伐期の長期化、広葉 樹の導入による育成複層林への誘導 等を推進し、森林資源の有効活用に も配慮 |

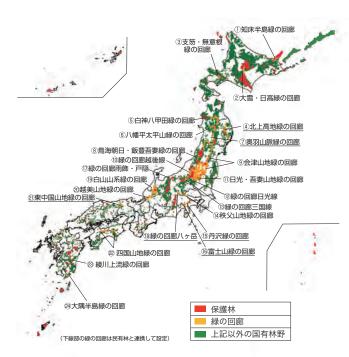
注:面積は、2018年4月1日現在の数値である。

資料:農林水産省「平成29年度 国有林野の管理経営に関する基本計画の 実施状況」

- ▶ 国有林野の90%は「水源かん養保安林」等の保安林であり、国民の安全・安心の確保のため、治山事業により荒廃地や保安林を整備
- ▶ また、民有林でも直轄で災害復旧を実施したほか、被災した地方公共団体に対する技術者の派遣等の協力・支援を実施
- 森林吸収源対策として、間伐等の森林 整備、治山施設等における木材利用等を 推進
- ▶ 生物多様性の保全を図るため、「保護林」や「緑の回廊」を設定、希少な野生生物の保護、シカ等の鳥獣による森林被害への対策等を実施
- ▶ 「公益的機能維持増進協定」により、 国有林に隣接・介在する民有林を一体的 に整備・保全

2018年3月末現在で15件(452ha) の協定を締結

「保護林」と「緑の回廊」の位置図



注:2018年4月1日現在。

資料:農林水産省「平成29年度 国有林野の管理経営に関する基本

計画の実施状況」

<事例> 地域と連携したシカ被害対策の取組

- ➤ 2018年10月、岩手南部森林管理署遠野支署は、地域 と連携しシカ被害の防止対策を推進するため、遠野市及 び遠野猟友会との3者で「ニホンジカ等被害対策協定」を 締結
- ▶ 同協定では、同支署がシカ捕獲のための「わな」を協定 相手方に貸与しシカの捕獲を行ってもらうなど、関係者 間での協力体制を構築して地域のシカ被害対策に努めて いる

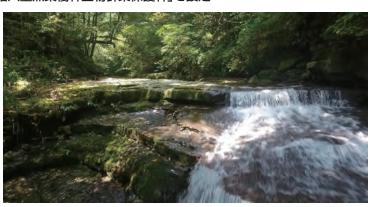


猟友会へ小型囲いわな組立・使用方法の 実演をしている様子

「猪八重照葉樹林生物群集保護林」を設定



イチイガシの巨木

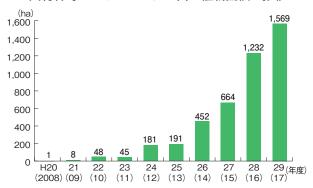


渓流沿いの蘚苔類

(2)林業の成長産業化への貢献

▶ 国有林野事業の組織、技術力及び資源を活かし、コンテナ苗の活用や伐採と造林の一貫作業システム等、林業の低コスト化に向けた技術を実証・普及に取り組み

国有林野におけるコンテナ苗の植栽面積の推移



資料:林野庁業務課調べ。

<事例>

ICTを活用した森林調査現地検討会を開催

- ▶ 2018年11月、宮崎森林管理署はICTを活用した森林調査について関係機関との情報共有を図るため現地検討会を開催
- ▶ 現地検討会では関係者約70名が集まり、カメ ラ付ドローンや地上レーザスキャナを活用した森 林調査の検討成果の紹介や現地での操作実演等を 交えながら情報共有・意見交換を行った





ドローンや地上レーザスキャナを使った 現地検討会の様子

- ➤ 同森林管理署では、ICT技術を活用した森林資源の把握による適正な木材取引や誤伐・盗伐の防止のため、引き続き関係機関とともに取組を進めていくこととしている
- ▶ 「森林共同施業団地」を設定し、路網整備、森林施業等について民有林と連携
- 承林経営管理制度(2019年4月施行) が効率的に機能するよう、民有林との連携を一層推進することに加え、意欲と能力のある林業経営者に対する国有林野事業の受注機会が増大するような配慮や、林業経営者に関する情報の市町村への提供等を実施することとしている
- ▶ 製材・合板工場等と協定を締結し、国 有林材を安定供給する「システム販売」 を実施(2017年度には国有林からの素 材販売量の72%)

国有林野における 伐採と造林の一貫作業の実行面積の推移

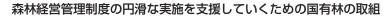


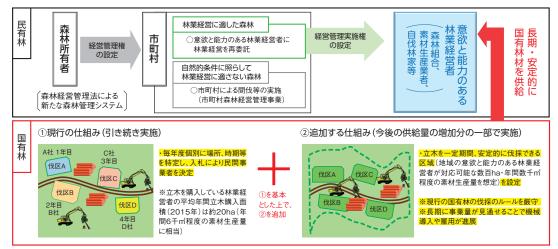
資料:林野庁業務課調べ。

国有林野からの素材販売量の推移 (万㎡) 350 n (%) 80 素材販売量 70 300 うちシステム販売 269 60 システム販売の割合(右軸) 250 50 200 40 150 30 100 20 50 10 H15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 (2003) (04) (05) (06) (07) (08) (09) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (年度)

資料: 林野庁業務課調べ。

▶ 林業の成長産業化への貢献に向け、意欲と能力のある林業経営者の育成を通じて、森林経営管理 制度を円滑に進めるため、国有林の一定区域で、公益的機能の維持増進や地域の産業振興等を条件 に、長期・安定的に原木供給できる仕組みの創設等を内容とする国有林改正法案を国会に提出





(3)[国民の森林]としての 管理経営等

- 森林環境教育や森林づくり等に取り組む 多様な主体に対して、「遊グの森」、「ふれあ いの森」、「木の文化を支える森」、「法人の森 林」を設定し、フィールドを提供。また、地 域の関係者や自然保護団体等と連携した「モ デルプロジェクト を実施
- ▶ 地方公共団体や地元住民等に対して国有 林野の貸付け等を実施。また、「レクリエー ションの森 | (自然休養林など6種類)におい ては、地域関係者と連携して管理運営
- ▶ 「明日の日本を支える観光ビジョン | (2016) 年3月)を踏まえ、観光資源としての潜在的 魅力がある「レクリエーションの森」を「日本 美しの森 お薦め国有林 とし

て全国で93か所選定し、重 点的な情報発信や環境整備等 を実施

▶ 東日本大震災からの復旧・ 復興に向け、海岸防災林の再 生や避難指示解除区域におけ る森林整備事業の再開等の取 組を実施

「日本美しの森 お薦め国有林」選定箇所の例



| | 森林管理局 | 箇所数 | 代表例 |
|---|-------|-----|----------------------------------|
| | 北海道 | 20 | ポロト、然別、えりも、ニセコ・神仙沼 |
| Ī | 東北 | 11 | 白神山地・暗門の滝、焼走、温身平 |
| | 関東 | 15 | まくく じ のぞり たかま きん 奥久慈、野反、高尾山 |
| | 中部 | 10 | 戸隠・大峰、駒ケ岳、赤沢、御岳 |
| | 近畿中国 | 20 | をたった。またを正統 安宅、近江湖南アルプス、嵐山、高取山 |
| | 四国 | 5 | つらぎさん くいしやま せんぽんやま 剣山、工石山、干本山 |
| | 九州 | 12 | くまもと、宮崎、猪八董の滝、屋久島 |

注: 各森林管理局の管轄区域における箇所数である。

資料: 林野庁経営企画課作成。

「日本美しの森 お薦め国有林」における情報発信の強化



- ウェブサイトのトップページ
- · 2018年5月、「日本美しの森 お薦め国有林」のウェブサイト (日英)を公開。
- サイトでは各国有林情報のほか、 地域のイベント等の最新情報を
- ・閲覧者数は旧サイトから増加。